

疾患基礎研究推進会議 (AMED-LINK)の紹介

令和5年12月15日

日本医療研究開発機構(AMED)

疾患基礎研究推進会議(AMED-LINK)について

〔背景〕

○令和2年度より、AMED第2期がスタート。

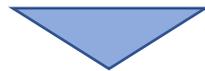
＜AMED中長期目標（第2期）より抜粋＞

AMED設立以降、AMEDにおいて基礎から実用化まで一貫した研究開発を推進する体制が構築され、それによりアカデミアのシーズが実用化に至るなど優れた研究開発成果が多数創出された。

一方、課題として、様々な疾患に展開可能なモダリティ（技術・手法）等の開発が疾患別の統合プロジェクトにより特定の疾患に分断されていたこと、（中略）などが挙げられる。



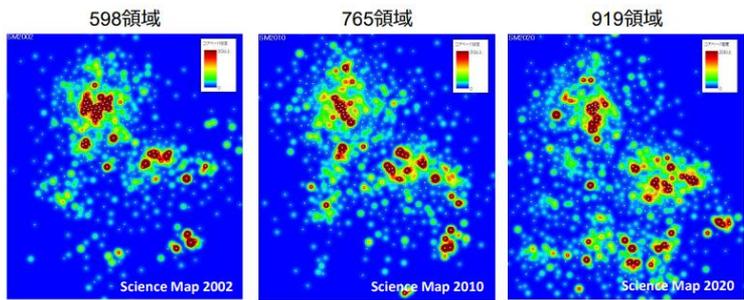
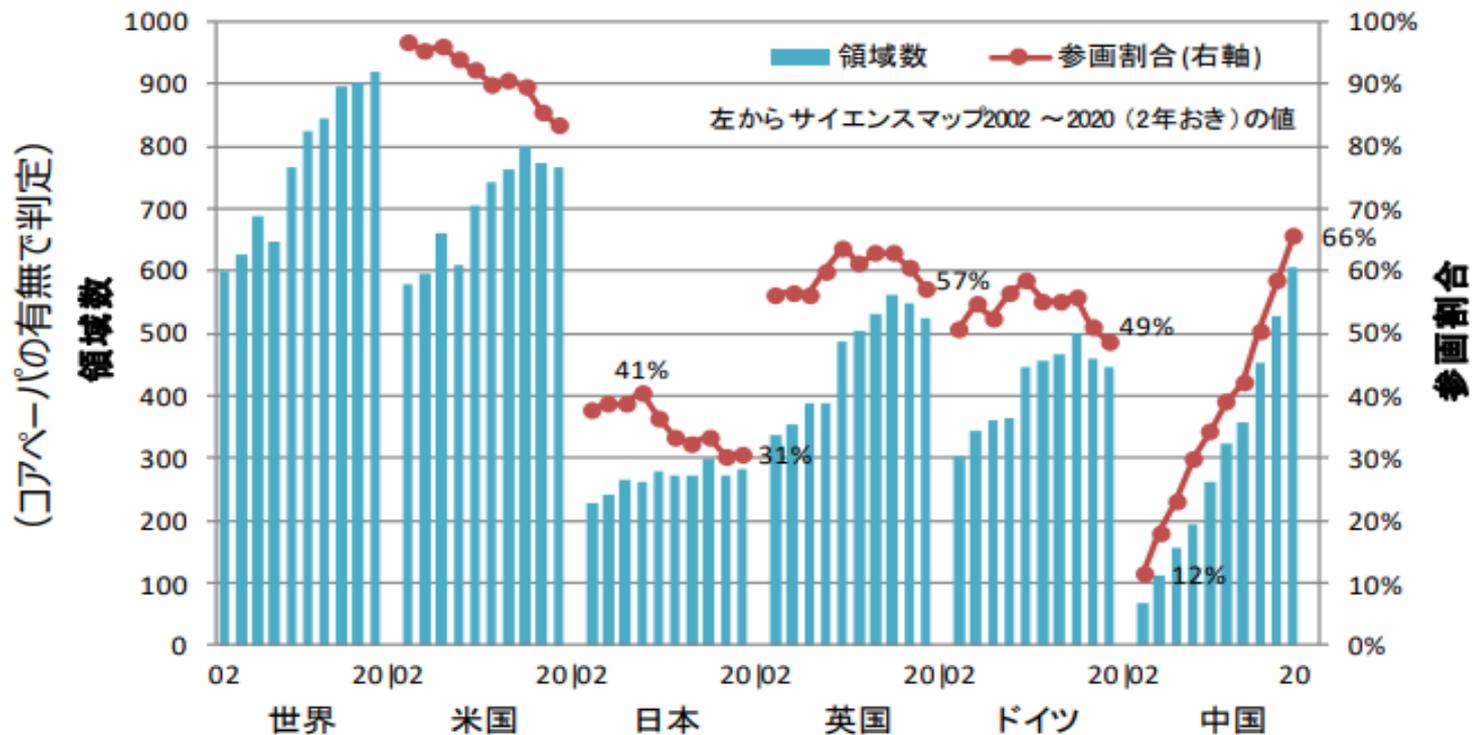
○令和4年度には、AMED第2期の折り返しとなる節目にあたり、疾患基礎研究プロジェクトPDPS会議を開催。若手研究者の育成や事業間連携などについて活発な議論が交わされた。



○令和5年度より、疾患基礎研究プロジェクトの全事業を対象に、研究者とさまざまな疾患分野の有識者（PDPSPO）が意見交換する場として、「AMED疾患基礎研究推進会議（**Leading Interdisciplinary research for Next generation's Knowledge; AMED-LINK**）」を新たに開催する。

20年間の研究領域数の動向

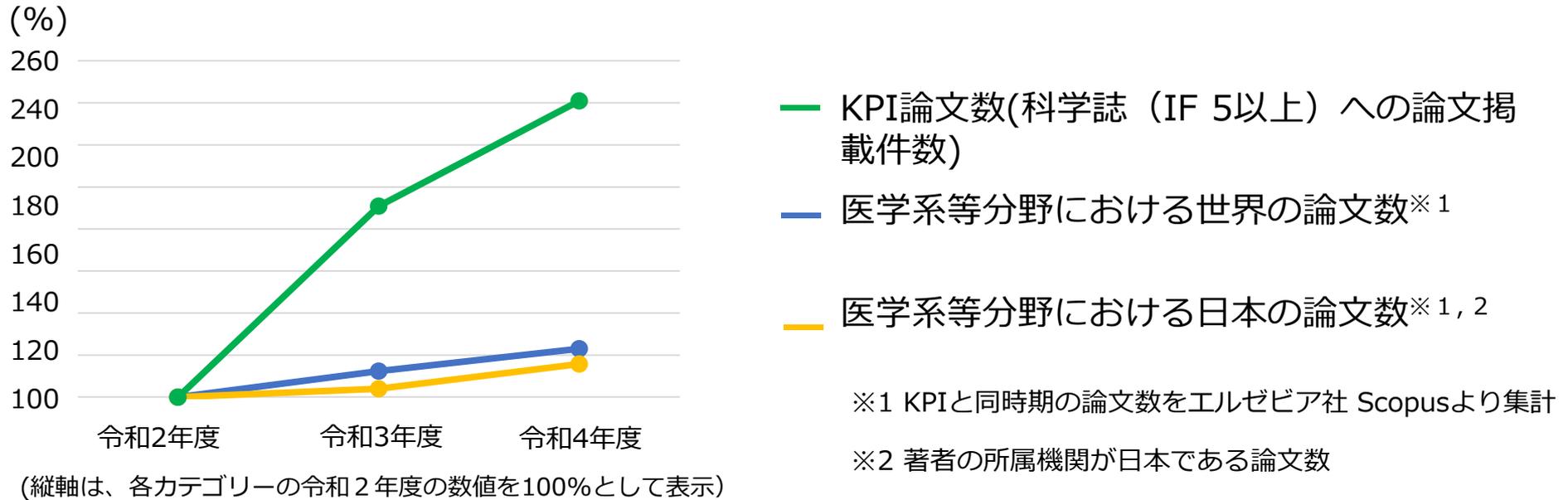
- ・世界の研究領域数はサイエスマップ2002から2020にかけて54%増加(598⇒919領域)。
- ・一方で、日本の参画する研究領域数はほぼ横ばい～微増に留まる？



NISTEP
サイエスマップ2020

疾患基礎研究プロジェクトの動向

・疾患基礎研究プロジェクト発の論文数増加傾向は、同分野の世界/日本全体と比較して非常に大きい。

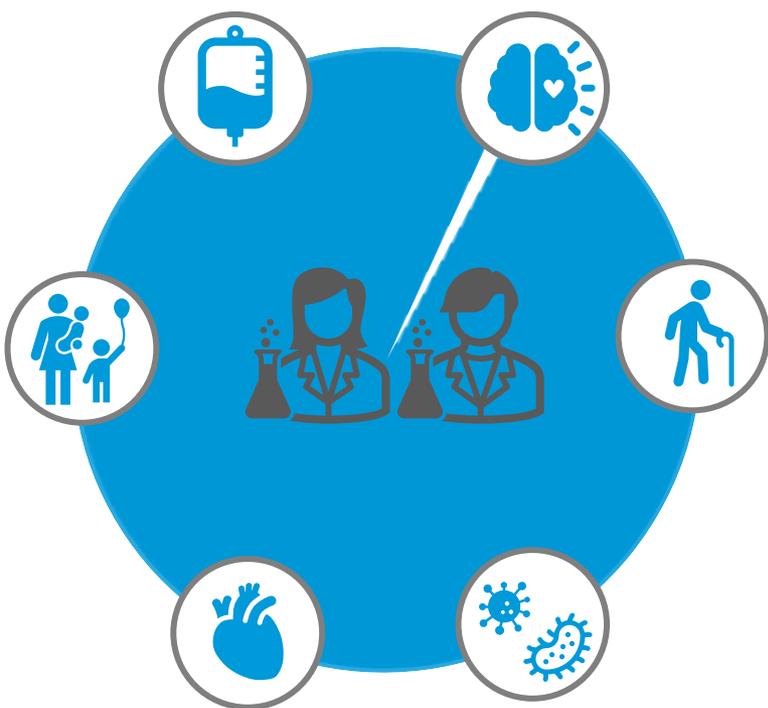


第二期（令和2～6年）中の評価指標（KPI）			①令和4年度末迄の累積数	②①のうち、令和4年度の達成状況
アウトプット	1	研究成果の科学誌（インパクトファクター5以上）への論文掲載件数 400件（80件/年）	1,856 件	841 件
	2	研究成果の科学誌（インパクトファクター5未満等の他の科学誌）への論文掲載状況	2,122件	594 件

(令和4年度における業務実績自己評価報告書概要より改編)

疾患基礎研究推進会議 AMED-LINK

Leading Interdisciplinary research for Next generation's Knowledge



- AMED疾患基礎研究プロジェクトの
さまざまな疾患分野の有識者(PD
PS PO)と
研究者の意見交換
- 共同研究 や 別分野公募への展開
- 研究開発成果の臨床応用や
他疾患への展開の一助へ



これまでの開催状況

1. 開催状況

【第1回 AMED-LINK】 開催日時：令和5年10月23日（月）14時～16時

【第2回 AMED-LINK】 開催日時：令和5年11月29日（水）10時～12時

- 宮園PDに加え、がん、生活習慣病、精神・神経疾患、感染症など各疾患分野のPSPOが参加（第1回18名、第2回25名）。

2. 開催の流れ

- テーマを「バイオマーカー（予防・早期診断）」と設定。
- 令和5年度支援中の**443課題中**、各事業（全13事業）PSPOからの推薦により**12課題が選出**。
- 他事業PSPOからの関心の高さやコメントの多さ、スケジュール等を勘案し、議題として最終的に**6課題を選定**。
- 各回にて3課題ずつ取り上げ、研究者のプレゼンと質疑応答を実施。

※推薦された12課題全てについて、PSPOと研究者の方々に、他事業PSPOから集まったコメントをフィードバック。

3. 今後の予定

- 現在、参加者等からのフィードバックを収集中。
- 頂いたフィードバックを踏まえ、次年度以降の開催形態や内容を、次回のPDPS会議にて議論予定（令和6年3月で調整中）。



これまでの開催状況

疾患メカニズムの解明、 生命現象の機能解明等を目的とする研究（149.1億円）	
がん・難病 (16.5億円)	<ul style="list-style-type: none"> ● 革新的がん医療実用化研究事業 ● 難治性疾患実用化研究事業
生活習慣病・ 成育 (9.9億円)	<ul style="list-style-type: none"> ● 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業 ● 腎疾患実用化研究事業 ● 免疫アレルギー疾患実用化研究事業 ● 女性の健康の包括的支援実用化研究事業
老年医学・ 認知症 精神・ 神経疾患 (65.5億円)	<ul style="list-style-type: none"> ● 脳とこころの研究推進プログラム ● 認知症研究開発事業 ● 長寿科学研究開発事業 ● 慢性の痛み解明研究事業
感染症 (57.2億円)	<ul style="list-style-type: none"> ● 新興・再興感染症研究基盤創生事業 ● 肝炎等克服実用化研究事業 ● エイズ対策実用化研究事業

研究課題名 (代表者名)	対象疾患（領域）等
「ポドサイトDNA損傷に起因する病原性メモリーT細胞を標的にした治療法開発」 (慶應義塾大学医学部腎臓内分泌代謝内科 林香教授)	腎疾患 議論の広がり 他疾患と共通する機序
「真菌関連アレルギー性気道疾患における真菌生態・宿主応答機序の解明と発症・増悪・重症化予防法の開発」 (東海大学医学部呼吸器内科 浅野浩一郎教授)	アレルギー疾患 (真菌) 他疾患と共通する機序
「先進的MRI技術に基づく統合データベースと大規模コホートデータの連結による高齢者神経変性疾患の責任神経回路の解明」 (京都大学医学研究科脳統合イメージング分野 花川隆教授)	脳神経疾患 (TauとAβ [*] 1蓄積を来す疾患群) データシェアによる他研究への応用
「高齢者のフレイルの早期予知・予防を可能とする新規バイオマーカーの開発研究」 (和歌山県立医科大学医学部公衆衛生学講座 牟礼佳苗准教授)	長寿科学 (フレイル ^{**2}) 他コホートとの連結応用可能性
「反応性アストログリオーシスを定量化する新規画像バイオマーカーの研究開発」 (東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター 田代学教授)	脳神経疾患 (認知機能低下を来す疾患群) 基礎分野・臨床分野からの示唆
「血管内皮細胞の病態解明による新型コロナウイルス感染症重症化の制御」 (北海道大学大学院歯学研究院 血管生物分子病理学教室 間石奈湖助教)	感染症 (新型コロナウイルス感染症) 他疾患と共通する機序

※1：タウタンパクとアミロイドベータ。アルツハイマー等を始めとする種々の脳神経疾患で蓄積がみられる物質。
 ※2：身体・心理・精神・社会的要素を含む広い疾患概念